

# 現代文ノートの作り方 2012

ノートは芸術作品ではない。綺麗に書くことを目的としている人が中にはいる。しかし、ノートは学力向上のためにあるのだ。学力は発想と知識を記録し、活用できるようにすると向上する。そのため、ノートの記憶できないこと記録するのである。記憶を長続きさせる（＝身体化する）ために記録するのである。

皆さんの授業中での活動を観察していると、「どうして授業中にあんなに活発に議論しているのに、テストの点数に結びつかないんだらう？」とか、「みんなにすばらしいことを発表しているのに、どうしてそれが定着していないんだらう？」などと気づくことがあります。

一人で黙々と考え、いい線までいっているのに、単純なことに気づかないために袋小路に陥っている。周りからのちよつとした指摘でその袋小路から抜け出せる。すばらしい発想があるのに、後押しがないため自信が無くその意見を表明できない。なんて人もいます。

授業中にわかっていったことが、授業が終わるとすっかり忘れてしまうのは、その情報が単なる情報のままで終わって、身についていない（＝身体化していない）からです。身体化するためには、その情報を得たときの思いつき、つぶやき、ひらめき、感情などと一緒に記録（文字や絵や図によって）しておくとういでしょう。

それらをうまく解決するために、現代文では次のようなノートの作り方をを行います。そして定期的なノートを巡回、点検し、周りの人に見てもらったり、周りの人のノートを参考にしたりして、情報の共有化をし、知のレベルを上げていくことを目的とします。

（1）縦書き、横書きは自由とする。（ここでは横書きで説明。）（2）ルーブリーフは不可。（3）見開き2ページで1セット。

